

ぜんかん 基金

CONTENTS

2016年度の決算及び事業報告について	2
2016年度の決算報告 年金経理	3
業務経理	4
2016年度の運用報告	5
「がん保険」集団取扱いのご案内	5
2017年度の事業計画及び進捗状況について	6
労働災害総合保険のご案内	6



2017年9月

第3号

全環境企業年金基金

2016年度の

決算及び事業報告について

2016年度の決算及び事業報告は、2017年7月25日に開催された第7回代議員会において、審議のうえ承認されました。

1 2016年度の事業報告

2016年度は、厚生年金基金から企業年金基金移行への総仕上げとなった年でした。

代行返上による国への納付もすべて完了し、厚生年金基金から企業年金基金への移行業務がすべて完了いたしました。ここに、事業主様をはじめ、ご理解ご協力をいただきましたご担当者様、加入者の皆様に厚く御礼申し上げます。

制度移行2年目ということで、3月末現在における仮想個人勘定残高のおしらせの発送、9月1日現在の加入者の基準給与確認等すべて順調に作業を行うことができました。

また、薄皮給付(基本プラスアルファ部分)等、旧制度(厚生年金基金)由来の給付について、まだ請求いただいていない方に対して再案内を行いました。

業務概況【2017年3月末】

実施事業所数	121事業所	加入者数	5,945人
		(男子)	(3,984人)
		(女子)	(1,961人)

給付状況【2017年3月末】

		支給件数	支給額
老齢給付金	年金	1,350件	7,342万円
	一時金	165件	3,257万円
脱退一時金		274件	9,194万円
遺族一時金		15件	703万円



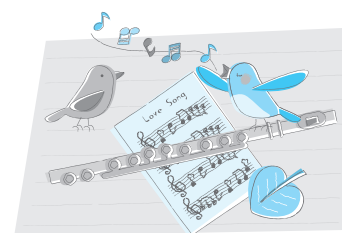
掛金徴収状況【2016年4月1日～2017年3月31日】

※納付時期(毎月末日)

掛金種類(全額事業主負担)		納付額
標準掛金	将来の年金・一時金給付のために仮想個人勘定に積み上げる額に対応する掛金	2億7,323万円
特別掛金	旧制度(厚生年金基金)からの移行時に保証した過去勤務債務を償却するための掛金	6,778万円

② 2016年度の決算報告

年金経理



2016年度は、掛金が順調に積み上がり、運用も順調であったので、財政決算の結果、当年度剰余金が290百万円発生しました。前年度までの別途積立金745百万円と合わせて、1,305百万円を2017年度に別途積立金として繰り越します。

2016年度末の貸借対照表【2017年3月31日現在】

資産勘定	決算額(百万円)	負債勘定	決算額(百万円)
年金資産	6,409	支払備金	39
信託資産	5,118	未払給付費	39
保険資産	1,290	数理債務	5,595
流動資産(預貯金等)	64	別途積立金	745
未償却過去勤務債務	196	当年度剰余金	290
合計	6,669	合計	6,669

財政検証結果の報告

▶▶ 毎年度末に、基金の年金財政が健全で、予定どおりに推移しているかをチェックするために2つの基準で検証を行います。

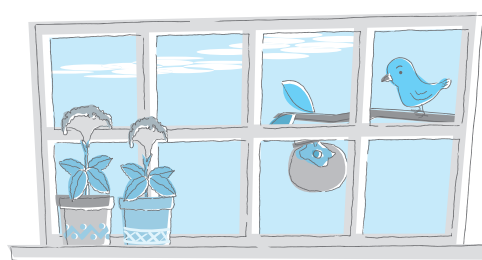
【財政検証基準日：2017年3月31日】

	当基金の積立水準		基準値
① 継続基準 制度の継続を前提に積立金が計画どおり積み立てられているかを検証	$\frac{\text{純資産額}^{*1}}{\text{責任準備金}^{*2}} = 1.19$	64億3,400万円 53億9,900万円	1.00以上
② 非継続基準 財政検証の基準日に制度を終了するとした場合に必要積立金があるかを検証	$\frac{\text{純資産額}^{*1}}{\text{最低積立基準額}^{*3}} = 1.33$	64億3,400万円 48億1,100万円	1.00以上

※1 純資産額=年金資産+流動資産-支払備金

※2 責任準備金=数理債務-未償却過去勤務債務

※3 最低積立基準額=保全すべき過去期間に係る給付について法で定められた方法で算出した額



≡ 業務経理 ≡

2016年度は、予定された事業計画に沿って費用を支出しました。

制度移行に伴う事務手続きを完了したことにより、主幹事会社に対して代行返上手数料の清算を年金経理から行いました。その支払いに充てるため、業務経理からの繰り入れを行いました。これにより生じた当年度不足金12,644千円は、繰越剰余金116,700千円より充当し、104,056千円を2017年度への繰越剰余金とします。

● 損益計算書【2016年4月1日～2017年3月31日】

(単位：千円)

費用勘定		収益勘定	
事務費(人件費・物件費)	47,504	掛金収入	56,213
代議員会費	494	雑収入	294
雑支出	1,152	当年度不足金	12,644
年金経理へ繰入れ	20,000		
合 計	69,151	合 計	69,151

※千円未満を四捨五入しているため内訳と合計は必ずしも一致しません

● 貸借対照表【2017年3月31日】

(単位：千円)

資産勘定		負債勘定	
流動資産(預貯金等)	113,010	流動負債(預り金等)	9,057
固定資産(権利金等)	2,369	基本金	119,068
繰延勘定(前払金)	103	基本金	2,369
基本金(当年度不足金)	12,644	繰越剰余金	116,700
合 計	128,125	合 計	128,125

※千円未満を四捨五入しているため内訳と合計は必ずしも一致しません

③ その他

《会議の開催》

2016年度開催した会議は以下のとおりです。

- 代議員会 2回(7/28・2017/2/28)
- 理事会 2回(7/19・2017/2/21)
- ◆ 資産運用委員会
3回(4/28・11/15・2017/1/24)
- ◆ 制度検討委員会
4回(6/14・9/20・2017/1/24・3/10)

《関係団体のイベントへの出席》

2016年度加入勸奨活動の一環として、関係団体のイベントに積極的に参加して、当基金のPRをしました。

- (一社)日本環境測定分析協会関係
 - ・ 環境セミナー in MITO(7/21～7/22)
 - ・ 環境セミナー in 岐阜(10/6～10/7)
 - ・ 経営者セミナー in うどん県(11/25)
- 各都道府県の関係団体
 - ・ 愛知県環境分析協会(総会)(5/25)
 - ・ 北海道環境計量証明事業協議会(研修会)(10/28)
 - ・ 神奈川県環境計量協議会(賀詞交歓会)(2017/1/17)
 - ・ 東京都環境計量協議会(賀詞交歓会)(2017/1/25)

④ 2016年度の運用報告

2016年度は、政策的資産構成割合*に沿って運用を行いました。2017年3月末において時価ベース利回りが6.34%と、財政運営上の予定利率2.50%を上回る良好な結果となりました。

マイナス金利政策下で債券の金利リスクが高まっていることを考慮し、国内債券の配分を抑制してきました。一方、利回り保証のある生命保険の一般勘定の活用を図り、ほぼ上限まで配分しました。また、国内債券を一部売却し、短期資金として保有する対応を取りました。

	政策的資産構成割合*			2017年3月末	
	下限値	中心値	上限値	資産構成割合	資産別残高 (百万円)
国内債券	23%	33%	43%	21.2%	1,359
国内株式	18%	23%	28%	22.2%	1,425
外国債券	0%	0%	5%	0.0%	0
外国株式	16%	21%	26%	20.5%	1,311
短期資金	3%	8%	18%	16.0%	1,023
一般勘定(生保)	10%	15%	20%	20.1%	1,290
合 計		100%		100%	6,409

*政策的資産構成割合…基金では、リスク管理と効率的な運用のため、積立金運用にあたり政策的資産構成割合を定めて、一定の範囲で資産を分散して投資します。

「がん保険」集団取扱いのご案内

当基金では、福祉事業の一環としてアフラックの「がん保険」について、募集代理店と団体割引の契約を結んでおります。

対象になるのは、現在当基金にご加入中の加入者様と、当基金の年金を受給中の受給者様で、割引保険料でご加入いただけます。



当基金の
ホームページ

基金からのお知らせ

アフラックのがん保険についてのご案内

から資料請求等ご案内しております。



携帯電話



この保険商品についてのお問い合わせは、右記の募集代理店へお願いします。

募集代理店 **アールワイ保険サービス株式会社**
【フリーダイヤル】 **0120-329-646**
(〒101-0047 東京都千代田区内神田1-1-14 日立鎌倉橋ビル)

2017年度事業計画及び予算は、2017年2月28日開催の第6回代議員会において承認されました。

1 2017年度の実業計画

新制度移行から3事業年度目を迎え、年度収支も安定してまいりました。

基金運営の柱となる適用・給付・掛金徴収については、さらに迅速で正確な処理を行い、年金受給までの記録管理、年金受給者の現況の確認等確実な業務を行います。旧制度(厚生年金基金)由来の給付についてまだ請求いただけていない方に対するご案内も引き続き行います。

また、右記の項目に重点を置き、加入事業所を増やす等、より安定した基金運営のために、基金として貢献できる事業を模索し、魅力ある企業年金基金を目指します。

- ①ポータビリティ(年金通算)拡充
- ②労災総合保険活用事業所の拡大
- ③協力団体のイベントへの参加(基金PR)

2 2017年度の実業進捗状況

適用・給付・掛金徴収	29.5 「仮想個人勘定残高のお知らせ」発送
	29.6 「基準給与の確認について(お願い)」発送
	毎月 <ul style="list-style-type: none"> ▶受給者の現況確認 ▶受給権発生者に対する案内・裁定等(年金・一時金) ▶適用諸届の処理 ▶納入告知書発送及び収納事務
ポータビリティ拡充の取り組み	29.6 非破壊検査業企業年金基金・そくりょう&デザイン企業年金基金へ訪問
労災総合保険活用事業所の拡大	訪問先 9社
加入勧奨活動の実施	未加入事業所への訪問 1社 協力団体のイベントへの参加 長野県環境測定分析協会総会他6会場に参加

*29.7に開催された「第20回 日環協・経営者セミナー in KOBE」において、ご出席された方に対して、企業年金制度に関するアンケート調査をお願いしました。(回答率46.8%)

その結果、ほとんどの方が企業年金制度について認識いただけており、老後の備えとして公的年金以外に企業年金制度に加入することは必要だと考えておられるようです。

そうした認識がある一方で、約半分が企業年金制度への加入をしていないという結果となりました。

労働災害総合保険のご案内

2017年度も昨年度に引き続き、当基金に加入している事業所様を対象に「労働災害総合保険」の割引契約事業を行っております。

労災事故の対応では、企業に求められる補償等の負担も年々高額化しており、万一に備えることで労使ともに安心して業務に関わることができます。

また近年、公共事業等の受注の条件として労災上乗せの保険加入が必要になっているケースもあり、いかに安い保険料で加入するかは重要な問題です。

今加入している保険の見直し、新規で加入を検討する等お気軽にご相談ください。

お問い合わせ先

全環境企業年金基金

☎043-221-6231

担当：常務理事



事務局からの
お知らせ

*事業所のご担当者様にご活用いただけるよう、新たに「事務のてびき」を作成して、各事業所にお送りする予定です。

その内容のご説明も含めて、主として担当が交替した等、まだ基金事務経験の浅いご担当者を対象に「基金事務の基礎研修会」を開催いたしますので、是非ご参加ください。

東京会場：11月10日(金) 三菱UFJ信託銀行本店15階 研修室

名古屋会場：11月17日(金) フジコミュニティセンター

ご案内は10月初旬に
お送りいたします。

